

魚介類環境調査事業

(貝毒モニタリング調査)

山根恭道

1. 研究目的

食中毒の原因となる貝の毒化を把握し、貝毒プランクトンの発生を調査する事により、貝毒による緊急事態に備えると共に未然の予防処置を実施する。

2. 研究方法

(1) 調査月日

県西部海域...4月17・28日、5月7・21日、6月4・11・20・25日、7月3・9・16・23・30日、
8月6日 計14日

県東部海域...4月20・26日、5月10・25日、6月8・13・25日、7月3・19・23・30日、8月
6日 計12日

隠岐海域...4月17日、5月1・8・21日、6月5・20日、7月2・23日、10月3日、11月13日、
12月18日、1月16日、2月13日、3月12日 計14日

(2) 調査項目

気象・海象 水質(水温・塩分・栄養塩・溶存酸素)プランクトン(貝毒・優占種)貝毒検査

3. 研究結果

(1) 水質

水温は調査期間を通して14.8~27.4で春期から夏期にかけて平年より1程度高く推移したが、10月に入って平年並みとなった。塩分は出雲海域で5月25日と7月19日、石見では6月20日、隠岐海域では6月5日に塩分の低下が見られた。溶存酸素は問題となる貧酸素状態は見られなかった。栄養塩類については調査期間を通して低めに推移した。

(2) プランクトン発生状況

出雲地区:7月上旬から下旬にかけて*A. catenella*が30~60cells/l確認された。

石見地区:5月7日と6月下旬から7月上旬にかけて*A. catenella*が30~80cells/l確認された。

隠岐地区:島前地区で4月17日と7月2日に*A. tamarense*が40~120cells/l確認された。また、
島後地区では10月3日と11月13日に*G. catenatum*が20~40cells/l確認された。

(3) 貝毒検査結果

健康福祉センターの貝毒検査により、隠岐島後地区の伊ガイで6月4日と7月2日、ヒガキガイで10月1日・11月5日・12月3日に中腸腺1g当たり、2.16~6.48mu/gと低い値ではあるが麻痺性貝毒が認められた。また、同じく隠岐島後地区の伊ガイで7月2日と7月9日に中腸腺1g当たり、0.05mu/gの下痢性貝毒が認められたが、島根県貝毒規制要領に基づき特別な規制は行わず検査体制を強化し状況を見守った。

この地区以外での麻痺性および下痢性貝毒の発生は認められなかった。

(付表 貝毒検査結果と貝毒プランクトン発生状況参照)